



「あっ！おい、その誰か！
すまないがちょっと手を貸してもらえないだろうか。
うっかり転んだら壁にめり込んでしまったのだ…。
一人では抜け出せないから、後ろからめいっぱい押し込んで欲しい」

「おっ、おい!?お前なにをしている!!

公衆の面前で女性の服をめくるとは何事だ!!

こっこの不埒者め、破廉恥なっ♡

これではものすごくいかがわしい状態になってしまってるではないか!

はあん♡ふっ、ふしだらな格好で下半身を露出させられて♡

で、このままでは男どもの慰み者にされてしまうではないかあっ♡」

「むっ、なぜパンツをはいていないのかだと?

ち、ちがうぞ、別に実はスカートの下はノーパンで

そのまま街を徘徊して興奮してたとかでは断じて無いぞ!

というか見るなあ!ああっ、欲望に塗れた男の視線があっ♡

ああんっ♡」

70
3人♡

「おいしいおいしいっ!? おっお前え!! ふっ、服をっ!!
待て待て待て待てっ!! ほ、本気なのかっ!?!
本気で私を犯そうというのかっ!?! こんな場所です!!
ご、これは冗談ではすまされないんだぞっ!!
やるからには責任を取ってもらうからな!?!
聞いているのか!?! あっ♡と、吐息を大事な所に吹きかけるなあっ♡」

ふっ♡

もあ♡
っ♡
っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

「ああっ♡
何度も何度も妄想はしたがこんな形で私は女にされてしまうのかあっ♡
ま、まさか誰ともわからぬ顔も見えない相手にっ♡
私の初めてを♡こんな惨めな格好でっ♡はああっああん♡
ふうっ♡ふーっ♡な、なにをしている♡早くなにかしろおっ♡
焦らしか!? 焦らしプレイなのかあ!?!」

「アツ♥ひいんツ♥きゅ、急に尻を叩くのは反則だぞっ♥
いきなりだと。あうっ♥いいいんツ♥
はふう♥尻があ♥ひりひりすりゅう♥
うぐっ♥ふううんっ♥
わ、私の尻を太鼓みたいに無遠慮に叩いてくれおっつえっ♥
んぎいつ!?♥あツ、回答は許さないとでもいいいたいのかあツ♥
この鬼畜めっ♥カズマにも劣らぬ畜生だなっ♥」



「いであつ!? ちよ、痛い!! 武器が何かで殴ってないか!?
いかに私とて流石に鋭利な金属で直肌はマズいぞ!!
お、怒ったのか!? カズマ!? カズマが駄目だったか!?
いきツ!! すまない!! いやすみません!!
カズマにも劣らぬ鬼畜はいいすぎましたごめんなさいっ!」

「ふーっ…ふーっ…ふう…」

ひどいではないか、如何にいたぶるのが醍醐味とはいえ、普通に武器で攻撃するのはマナー違反だろう。

相手が私でなければ死んでいたぞ。

……………それで、尻を叩いて終わりか…？もう満足したのか？

↓↓↓↓までしておいてこの程度で終わらせる気は…」

♡ふっ♡♡

むぎゅ♡♡

キゅん♡♡

♡ふっ♡♡

「あっ…♡こ、この感触は…アレだな…!?

ついにアレなんだな!?

噂には聞いていたが…本当に…脈打っていて…♡

熱いんだな…♡はあはあ…♡今からこれが私のナカにつ…♡

そ、そのようなモノで私を屈させられると思ったら大間違いだぞ!

押し出して跳ね返してやるからな!嘘だと思っなら試してみろっ!

さあ!早く♡はあっ♡早くうっ♡」



「んあああっ♡うくうっ♡は、はいつてきたああ♡
おあっ♡んぐうっ…♡き、聞いていたほど痛くないなっ♡ぶっ♡
で、でも身体の中を押し広げられているこの感じはっ♡
なんとも言えない違和感だっ…♡
くあっ…♡あっ♡う、動くとナカを擦られてっ♡
ああっ♡く、くすぐりたい変な感じた♡んんうっ…♡」

あゝ♡

すっ♡

んっ♡

あゝ♡

んっ♡

んっ♡



「んあああっ♡うぐうっ♡は、はいつてきたああ♡
おあっ♡んぐうっ…♡き、聞いていたほど痛くないなっ♡ぶっ♡
で、でも身体の中を押し広げられているこの感じはっ♡
なんとも言えない違和感だっ…♡

くあっ…♡あっ♡う、動くとナ力を擦られてっ♡
ああっ♡く、くすぐりたい変な感じた♡んんうっ♡」

あっ♡

あっ♡

あっ♡

すっ♡

あっ♡

あっ♡

「あッ♡はあッ♡ああッ♡は、早い♡
動くのがッ♡早いぞッ♡んんんッ♡ふあッ♡
あ、あそこが擦れすぎてッ♡頭が追いつかない♡
ふうあ♡ひああッ♡ああああッ♡
だ、だめだッ♡あそここのぞわぞわがすすすぎてッ♡
あッ、頭がおかしくなりそうだし♡
こんなの知らないッ♡知らないひいッ♡」

アッ
アッ
アッ

んんん

あッ
あッ
あッ

あッ
あッ
あッ

あッ
あッ
あッ

あッ
あッ
あッ

あッ
あッ
あッ



「うああっ♡ひいんっ♡や、やめてくれえ♡

おっ、おかしくなるっ♡あたまあっ♡

ゆるっ♡ひてえっ♡

ふああああ♡ああっ♡

あっ!ま、また動きが早くっ♡んきゅうっ♡

オチンポもビクビクしてっ♡ひああっ♡

イツ♡イキそうッ♡イツてしまっ♡

こんな街中でえっ♡外で壁にハマったままあっ♡

ズンッ♡

ズンッ♡

あゝ♡

ぐん♡

すっ♡

ズンッ♡

「おおああああっ♡奥っ♡はげしっ♡イグっ♡
イクっ♡イクイクイクイクッ♡
いひっいいあああああああっ♡」

とちっ♡

ズンッ♡

「おほああ……♡はふう……♡
ふう……♡ふう……♡

ほ、本当のセックスがこんなにすごいものだったとは……♡
もう妄想だけで満足なんてできなくなってしまおう……♡

あはあ……はっ、い、いや、私はこんな快樂に負けたり……しないぞ……!?
か、カズマに頼まれたお使いがまだあるんだ……。

お使いもできないような騎士だと思われては

出奔中の身とは言え家名に傷が付く……!

随分時間を潰してしまっただが、早くここから出っぺ……

もあ、♡

キ、キ、キ、♡

ア、ア、ア、♡
ア、ア、ア、♡

ト、ト、ト、♡

「え……? まだだめ? 人が集まってきた順番待ちになってる……!?

そ、そんなあつ……! 私は公衆便所ではないのだぞつ……こ、公衆……便女……♡

いやっだめだ……欲に負けてはっ……♡

ひあつ♡あつ♡つ、次がもう挿入つて……♡

ああつ♡すまないカズマ♡

ここから抜け出せない以上、お使いはこなせそうにない♡

抜け出せないからな! 仕方ないな! あんっ♡

誰かがっ♡助けてくれるまでっ♡んっ♡待つしかあつ♡

私は♡ああんっ♡たしゆけをっ♡まつてりゅらりん♡」

ふ、ふ、ふ、♡

「おほああ……♡はふう……♡
ふう……♡ふう……♡

ほ、本当のセックスがこんなにすごいものだったとは……♡
もう妄想だけで満足なんてできなくなってしまおう……♡

あはあ……はっ、い、いや、私はこんな快樂に負けたり……しないぞ……!?
か、カズマに頼まれたお使いがまだあるんだ……。

お使いもできないような騎士だと思われては

出奔中の身とは言え家名に傷が付く……!

随分時間を潰してしまっただが、早くここから出っぺ……

もあ、♡

キ、キ、♡

ア、ア、♡
ア、ア、♡

「え……? まだだめ? 人が集まってきた順番待ちになってる……!?

そ、そんなあつ……! 私は公衆便所ではないのだぞつ……こ、公衆……便女……♡
いやっだめだ……欲に負けてはっ……♡

ひあつ♡あつ♡つ、次がもう挿入つて……♡

ああつ♡すまないカズマ♡

ここから抜け出せない以上、お使いはこなせそうにない♡
抜け出せないからな! 仕方ないな! あんっ♡

誰かがっ♡助けてくれるまでっ♡んっ♡待つしかあつ♡

私は♡ああんっ♡たしゆけをっ♡まつてりゅらりん♡」

おしまい



「あー！おい、そこの誰か！

すまないがちよっと手を貸してもらえないだろうか。

うっかり転んだら壁にめり込んでしまったのだ…。

一人では抜け出せないから、後ろからめいっぱい押し込んで欲しい」

「おっ、おい？お前なにをしている!!」

公衆の面前で女性の服をめくるとは何事だ!!

こっこの不埒者め、破廉恥なっ♡

これではものすごくいかがわしい状態になってしまってるではないか!
はあん♡ふっ、ふしだらな格好で下半身を露出させられて♡

ま、このままでは男どもの慰み者にされてしまうではないかあっ♡♡

「むっ、なぜパンツをはいていないのかだと？」

ち、ちがうぞ、別に実はスカートの下はノーパンで

そのまま街を徘徊して興奮してたとかでは断じて無いぞ!

というか見るなあ! ああっ、欲望に塗れた男の視線があっ♡

ああんっ♡

70
3人♡

「おいらららららら！おっお前え!!ふっ、服をつ!!
待て待て待て待てつ!!ほ、本気なのかつ!!
本気で私を犯そうというのかつ!!こんな場所で!!
ご、これは冗談ではすまされないだぞつ!!
やるからには責任を取ってもらうからな!!
聞いてらるのか!?あつ♡と、吐息を大事な所に吹きかけるなあつ♡」

ふっ♡

もよほ♡
っ♡
っ♡

っ♡

っ♡
っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

「ああつ♡
何度も何度も妄想はしたがこんな形で私は女にされてしまうのがあつ♡
ま、まさか誰ともわからぬ顔も見えない相手に♡
私の初めてを♡こんな惨めな格好で♡はああつああん♡
ふうっ♡ふーっ♡な、なにをしている♡早くなにかしろあつ♡
焦らしか!?焦らしプレイなのがあ!?♡」

「アツ♡ひんんツ♡きゅ、急に尻を叩くのは反則だぞっ♡
いきなりだと。あうっ♡いいいんツ♡
はふう♡尻があ♡ひりひりすりゅう♡
うぐっ♡ふううんっ♡
わ、私の尻を太鼓みたいに無遠慮に叩いてくれおつてえっ♡
んぎいつ!?♡あツ、口答えは許さないとでもいいたいのかあツ♡
この鬼畜めっ♡カズマにも劣らぬ畜生だなっ♡」

「いдаあつ!?ちよ、痛い!!武器か何かで殴つてないか!?
いかに私とて流石に鋭利な金属で直肌はマズいぞ!!
お、怒つたのか!?カズマ!?カズマが駄目だったか!?
いきッ!!すまない!!いやすみません!!
カズマにも劣らぬ鬼畜はいいすぎましたごめんなさいっ!!」



「ふーっ…ふーっ…ふう…。」

ひどくではないが、如何にいたぶるのが醍醐味とはいえ、普通に武器で攻撃するのはマナー違反だろう。

相手が私でなければ死んでいたぞ。

……………それで、尻を叩いて終わりか…？もう満足したのか？

NNNNまでしておいてこの程度で終わらせる気は…。」

♡♡♡♡♡

まぢぢ♡♡♡♡♡

キ、キ、キ♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

「あっ…♡こ、この感触は…アレだな…!？」

ついにアレなんだな!？」

噂には聞いていたが…本当に…脈打っていて…♡

熱いんだな…♡はあはあ…♡今からこれが私のナカにつ…♡

そ、そのようなモノで私を屈させられると思ったら大間違いだぞ!

押し出して跳ね返してやるからな!嘘だと思っなら試してみろっ!

さあ!早く♡はあっ♡早くうっ♡」

「んあああっ♡うくうっ♡は、はいつてきたああ♡
おあっ♡んぐうっ…♡き、聞いていたほど痛くないなっ♡ぶっ♡
で、でも身体の中を押し広げられているこの感じはっ♡
なんとも言えない違和感だっ…♡
くあっ…♡あっ♡う、動くとナカを擦られてっ♡
ああっ♡く、くすぐりたい変な感じた♡んんうっ♡」

あゝ♡
すっ♡
ん♡

ん♡

ん♡



「あッ♡はあッ♡ああッ♡は、早い♡
動くのがッ♡早いぞッ♡んんんッ♡ふあッ♡
あ、あそこが擦れすぎてッ♡頭が追いつかない♡
ふうあ♡ひああッ♡ああああッ♡
だ、だめだッ♡あそここのぞわぞわがすすすぎてッ♡
あッ、頭がおかしくなりそうだあッ♡
こんなの知らないッ♡知らないひいッ♡」

アッ
アッ
アッ

んんん

あッ
すっ
すっ
すっ

んんん

あッ
あッ
あッ

んんん

んんん



「うおおっ♡ひいんっ♡や、やめてくれえ♡

おお、おかしくなるっ♡あたまあっ♡

ゆるっ♡ひてえっ♡

ふああああ♡ああっ♡

あっ！ま、また動きが早くっ♡んきゅうっ♡

オチンポもビクビクしてっ♡ひああっ♡

イツ♡イキそうッ♡イツてしまっ♡

こんな街中でえっ♡外で壁にハマったままあっ♡

ズンッ♡

ズンッ♡

すっ♡

ぐっ♡

ズンッ♡

とっ♡

「おおああああっ♡奥っ♡はげしっ♡イグっ♡
イへっ♡イへっ♡イへっ♡イへっ♡
いひっ♡いひっ♡あああああああっ♡」

ズンッ♡

「おほああ……♡はふう……♡」

ふう……♡ふう……♡

ほ、本当のセックスがこんなにすごいものだったとは……♡

もう妄想だけで満足なんてできなくなってしまおう……♡

あはあ……はっ、い、いや、私はこんな快樂に負けたり……しないぞ……!?

か、カズマに頼まれたお使いがまだあるんだ……。

お使いもできないような騎士だと思われては

出奔中の身とは言え家名に傷が付く……!

随分時間を潰してしまっただが、早くここから出ったく……

もあ、♡

キ、キス♡

キス♡
キス♡

トクッ♡

「え……? まだだめ? 人が集まってきた順番待ちになってる……!?

そ、そんなあつ……! 私は公衆便所ではないのだぞつ……こ、公衆……便女……♡

いやっだめだ……欲に負けてはっ……♡

ひあつ♡あつ♡つ、次がもう挿入つて……♡

ああつ♡すまないカズマ♡

ここから抜け出せない以上、お使いはこなせそうにない♡

抜け出せないからな! 仕方ないな! あんっ♡

誰かがっ♡助けてくれるまでっ♡んっ♡待つしかあつ♡

私は♡ああんっ♡たしゆけをっ♡まつてりゅらりん♡」

ふっ♡



女の子

ゴッ

ハズ

↑

おぼ

ゴッ

おぼ

ハズ

ゴッ

おぼ

ゴッ

ゴッ

















































